

令和元年度 京都御池中学校生徒・保護者・けやき委員・教職員アンケート 結果と考察

けやきプロジェクト・学校評価委員会

〔アンケート調査実施時期等について〕

生徒アンケート 前期：7月 後期：12月 保護者アンケート 12月

けやき委員アンケート2月 教職員アンケート 1月

〔アンケート結果の検証について〕

教職員研修、2月けやきプロジェクト・学校評価委員会で検証・確認を行った。

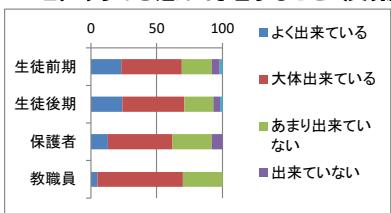
A：生徒（前期・後期）、保護者、教職員アンケート結果の比較

1. 楽しく学校に通うこと（実現度）



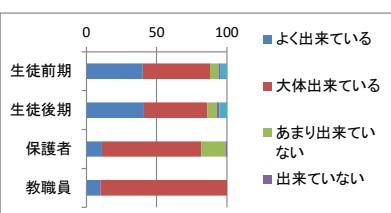
「よく出来ている」「大体出来ている」が全体として9割近くを占めている。いろいろな活動に取り組む中で自分の居場所があり、学校が楽しいと感じている生徒が多いと考えられる。生徒自身の「よく出来ている」が、前期から後期にかけて若干増加した結果からみると、多くの生徒が目的意識を持って学校に登校していると考えられる。割合は少ないが「あまり出来ていない」「出来ていない」と答えている生徒がいることに心を留めて、教育活動を進めていきたい。

2. みずから進んで学習すること（実現度）



生徒、教職員の約7割近くが「出来ている」と回答している。また、前期から後期にかけて「出来ている」に若干の伸びが見られる。これは、日常における生徒と教職員の関わりの中で、少しずつではあるが学習意欲が高まっているものと捉えられる。ただ、3～4割近くの生徒・保護者・教職員が「あまり出来ていない」「できていない」と回答していることから、今まで以上に日常の授業の中で、主体的に学習する態度を育てていきたい。（キャリアパスポートを通じての自らの生活設計・テスト前計画作り並びに反省など）

3. ひとりひとりが大切にされていること（実現度）



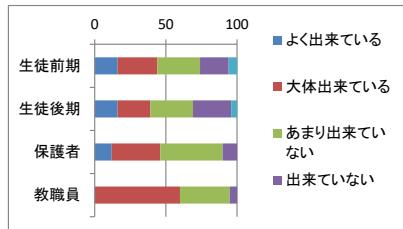
生徒・保護者・教職員共に、9割近くが「出来ている」と回答している。生徒の回答では、「よく出来ている」が他と比較すると割合が高い。また後期に伸びが見られる。日々の生活の中で、生徒自身がそのように感じる場面が増えていると考えられる。一方で、保護者の「あまり出来ていない」の回答が他に比べ多い。生徒同士の関係や教職員との関わりの様子などを、注意深く観察していく必要がある。生徒との関わり方など意見交流・情報共有を図り、生徒はもちろん保護者にも「大切にされている」と伝わるような関わりを構築していきたい。

4. 先生に相談しやすい雰囲気があること（実現度）



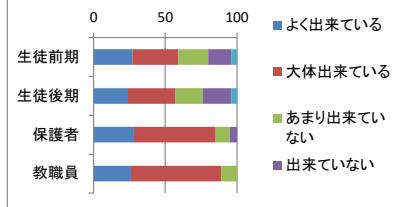
全体として生徒の8割が「出来ている」と感じている。様々な取組を通じて教職員と話したり、進路に向けての相談をしたりする機会がある結果と考える。教職員は「大体出来ている」を含めると9割を超えており、日頃から生徒に積極的に声をかけたり、教育相談などでじっくりと話を聞いた結果があらわれたものと考察する。保護者の2割程度の方が「あまり出来ていない」と感じられていることについては、学校と保護者との連携を更に密にして、生徒の様子をきめ細やかに伝えていく必要がある。

5. 地域のボランティアとして参加すること（実現度）



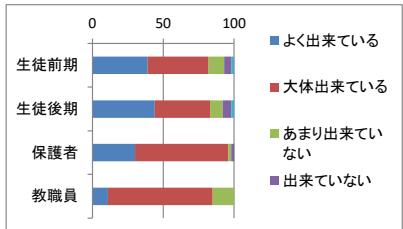
生徒の回答で、前・後期とも6割程度が地域のボランティア活動に参加できていないと回答している。昨年度までは、主に部活動単位で参加していたが、今年度はボランティア活動本来の自主性をより育てるために、学区別集会などで地域のボランティア活動の紹介をしたり各種ボランティア活動への参加についてのアンケートを実施し、その結果をうけて自ら参加できるよう教職員から働きかけをするなどの取り組みを行った。参加人数は若干減ってしまったが、この結果をうけて、ボランティア活動に対する意識をさらに高め、自発的に地域社会に貢献していくことを心地育てていきたい。

6. テスト前に放課後学習会や土曜学習会を行うこと（実現度）



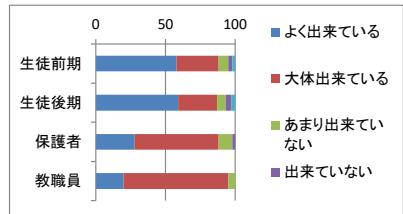
保護者の8割近くが「出来ている」と回答していただいていることについて、学校が放課後学習会や土曜学習会など有意義な学習機会を提供していると評価して頂いているものと考える。ただ、生徒と保護者・教職員とでは「出来ている」で3割ほどの差があり、生徒が学習会に求めるニーズと実際の内容とに差があるものと思われる。生徒が求めるニーズをより具体的に分析して、より充実感・達成感を得られるような学習会を提供していく必要がある。

7. 委員会・係活動に積極的に取り組むこと（実現度）



生徒・保護者・教職員共に、9割近くが「出来ている」と回答している。また生徒の「よく出来ている」の回答が、後期に少し伸びている。それぞれの委員会活動を通じて、充実感が高まっているものととらえる。そのような生徒自身の頑張りを評価し、わかりやすく生徒に返していくことがより一層の伸びに繋がるものと考える。また生徒の活動の様子などを学校によりやホームページなどで保護者に伝えていくことで、生徒はもちろん保護者にも学校生活の様子がより伝わるものと考える。

8. 部活動に積極的に取り組むこと（部活所属生徒のみ）（実現度）



生徒・保護者・教職員共に、9割近くが「出来ている」と回答している。特に生徒の回答の「よく出来ている」が、他と比較すると割合が高い。また後期に伸びも見られる。生徒が目的意識を持ち、日々の部活動に積極的に取り組んでいることが窺える。一方、保護者の「あまり出来ていない」の回答が他に比べてやや多い。生徒の活動の様子は勿論、部活動で育まれる協調性や粘り強く取り組む態度など部活動の意義を一層わかりやすく伝えていく必要がある。

D：まとめ

生徒アンケート・保護者アンケート・教職員アンケートの結果全体として、「出来ている」という回答が多く、ここ数年と同じく、「信頼される学校づくり」が概ね進められていると考えます。

教職員のアンケートの結果は、開校以来進められてきた「読解力の育成」を柱とした多様な取組について、十分に共通理解されたものになっているか、意欲と意識をもって取り組めているかを問い合わせ直す必要性を感じさせる内容となっています。今年度、けやきプロジェクトの部会の編成を行いました。また新学習指導要領のスタートを控えた今、これまでの取組をさらに改善・発展させて、教育活動をより充実させていくことが肝要と考えられます。

今後も保護者・地域の皆様方から忌憚のないご意見をいただき、学校・家庭・地域が一体となってつくりあげる学校教育活動の推進をめざしたいと考えております。ご理解・ご協力のほどよろしくお願ひいたします。